

ジャクリンシード by シンプロット社による“グリライ”ブランドペレニアルライグラス“JKS501”と”リプレイ“品種の管理方法

●ジャクリンシード社による“グリライ”ブランドペレニアルライグラスは“バイオ技術”あるいは“遺伝子組み換え”、“ラウンドアップレディー”のような草種なのでしょうか？

A, いいえ、JS501 とリプレイは 1999 年にライグラスの畑で自然に変異したライグラスです。このライグラスは高い除草剤抵抗性と、より優れた芝質の種子生産用の品種として育種改良されハイブリッド化されました。第一に、遺伝子組み換えではない品種と言う意味は除草剤の抵抗性に限界があるという意味であり、除草剤の散布量は規定値を超えてはいけないということが重要だということです。

●雑草のコントロールと安全性を考慮して一番良いラウンドアップ（グリフォセート）の使用量はいくらなののでしょうか？

A, JS501 とリプレイは 0.03g/m²のラウンドアップ製品（グリフォセート）の使用を推奨しています。この推奨量より少ない量の使用も可能ですが雑草への効果はある程度劣ることになります。

●オーバーラップした場合の安全性はどうなののでしょうか？

A, はい、オーバーラップしても安全です。オーバーラップして、推奨値の二倍の量が散布されても最低限で一次的な茶色化（0 から 20%）で収まります。

●まちがって過剰なオーバーラップで散布量してしまった場合、JS501 とリプレイは枯れてしまうのでしょうか？

A, いいえ、しかし JS501 とリプレイは長期間茶色化、密度の低下を起こしますが最終的には回復します。

●芝密度が下がってしまわないのでしょうか？

A, 基本的にラウンドアップを推奨量で散布した場合、目に見えるような密度低下は起こりません。しかしながら種子繁殖のライグラス、あるいはどのような種子繁殖の作物でも実際の生産ロットごとに少ない量（20%以下）のラウンドアップ抵抗性の低い種子が混入してしまいます。これは起こり得ることであって芝の中では自然に淘汰されていき、ほとんどの場合密度低下の障害が目に見えて起こることはありません。

●ラウンドアップ 0.03 g /m²でカタビラにはどの程度効果が出るのでしょうか？

A, 一回の 0.03g/m²の散布で完全にカタビラを消すことができます。

●ラウンドアップを撒いた“グリライ”は成長抑制剤を撒いた時のように成長が抑制されるのでしょうか？

A、はい、試験結果ではラウンドアップ処理したばあい、プリモと同じように2～3週間刈り取り量が減ることがわかっています。

●成長抑制剤とラウンドアップをタンクミックスして撒くことは可能でしょうか？

A、現状では、過剰にJS501とリプレイの成長を抑制するのを避けるためにタンクミックスによる混合散布は推奨していません。タンクミックスによる様々な試験については現在も行なっております。

●いつ種をまいて、いつラウンドアップを撒けばいいのでしょうか？

A、JS501とリプレイを播種した日に0.03g/m²の散布をしても全く発芽や初期生育に問題はありません。また試験結果では播種後1～2週間後に散布しても全く安全でした。しかしながら、播種後3～7週間の間の散布は障害が報告されています。

●ウィンターオーバーシーディングの期間、推奨される散布の時期を教えてください。

A、9月～10月に播種する地域では12月の初旬がカタビラを枯らすための一番良い最初の散布時期となります。

●WOSのターフにラウンドアップを撒いたときに、ベースの完全に休眠していないバミューダグラスはどうなるのでしょうか？

A、バミューダグラスが完全に休眠してから散布することを推奨いたします。もし推奨散布量で完全に休眠していないバミューダグラスに散布した場合若干バミューダグラスが色落ちすることがありますが、バミューダグラスが薄くなったり枯死したりすることはありません。

●シーズン中に何回安全に散布することができるのでしょうか？

A、今のところ、0.03g/m²で2回までの散布が試験結果から安全であると証明されています。現在進行中の試験で、成長期に3回あるいはそれ以上の散布の試験も行っております。複数の散布をする場合、最低でも4週間以上の間隔を開けなければいけません。

●必要があってJS501とリプレイを消さなければいけない時に他の除草剤は使えますか？

A、フィナーレ（有効成分グルフォシネート）の規定薬量散布でJS501とリプレイを3週間以内に枯らすことができます。

●グリライブランドのライグラスはラウンドアップ（グリフォセート）以外の除草剤にも抵

抗性はあるのでしょうか？

A、一般的にライグラスに使用可能な登録の農薬はグリライグラスにも同じように使用可能です。またラウンドアップ以外の除草剤には他のライグラス同様に一切抵抗性はありません。

●ラウンドアップを散布してはいけない環境条件はあるのでしょうか？

A、基本的に除草剤を散布するときの注意点と同じことを考慮する必要があります。乾燥時、散水時の散布、あるいはひどい高温時、低温時の気象条件での散布などは除草効果を下げることになります。しかしながら、試験結果から 10℃以下の気温条件下での散布は JS501 とリプレイにやや障害が出やすくなります。

●0.03g/m²の散布量ですべての雑草をコントロールできるのでしょうか？

A、いいえ、0.03g/m²の散布量は広葉雑草の密度を最小化することはできますが、すべての雑草を完全に除去することはできません。特に長年生えている株化や木化した雑草には効果が出ません。しかしながら 0.03g/m²でカタビラは完全に故殺します。またラウンドアップを散布後に発芽した雑草には全く効果がありません。

●JS501 とリプレイの播種量によってラウンドアップの反応は違うのでしょうか？

A、いいえ、研究結果から、播種量 10～55g/m²まで JS501 とリプレイのラウンドアップに対する反応に違いはありませんでした。

●刈高による影響はありますか？

A、0.03g/m²の散布量は、刈高 13～44mm の JS501 とリプレイにはまったく安全に使えます。しかしグリーンの高での抵抗性についてはまだ行っておりません。この試験が終わるまでグリーンの高での使用は推奨できません。

●ラウンドアップの散布によって JS501 とリプレイのストレス抵抗性が下がってしまいませんか？

A、ストレス抵抗性の試験は引っ掻きストレスの抵抗性しか行われていません。0.066cc/m²の散布一か月後に引っ掻きテストをしてその2週間後には無処理区と同じように回復しています。

●ラウンドアップを散布後踏圧に対する抵抗性はさがってしまいませんか？

A、現状では、ラウンドアップ散布後数日は踏圧が最小になるようにすることをお勧めしています。踏圧抵抗性の推奨をより正確にするためのラウンドアップ散布後の踏圧抵抗性の試験はまだ進行中です。

● 散布するときに浸透剤や水の pH調整剤を使用した方が良いでしょうか？

A, ラウンドアップには製品中に浸透剤が入っています。しかしながら若干酸性の pHの方がラウンドアップの散布には適しています。現在もよりそれらの問題点についてより正確性を期すための詳細な試験が行われています。

重要事項：この商品はまだ試験販売の状況で、現在も研究中です。推奨値等は管理方法、気候環境、散布技術によって変わります。大規模で使用する前 21～28 日前にご自身の場所で小規模試験をしてください。

2017/6 作成